

## Bさん（身体障害・新規就労）

### ①これからの働き方を考えよう（就労支援課：職業相談）

Bさんは脳梗塞の後遺症で、右片麻痺が後遺症として残り、それまで勤めていた会社を退職しました。病院の医療ソーシャルワーカーから、仕事の相談先としてリハビリセンターを紹介され、職業相談を行いました。

### ②自分の働く力を知ろう（就労支援課：職能評価）

職能評価を行い、今まで気づけなかった課題がいろいろと見えてきました。それまでの利き手が麻痺してしまっただけ、働くことに向けて、利き手交換を集中的に練習していくこととしました。

### ③働き続けるための基礎をかためよう（就労支援課：通所プログラム）

通所プログラムへの参加を開始しました。片手でやってみようの会に参加し、日常的な片手動作の工夫について、同じような症状の方たちと話し合い、便利な方法をたくさん知ることができました。体育プログラムに参加し、自宅でできるストレッチや筋トレの方法を教えてもらい、健康維持の方法が整理できました。

再発予防のポイントを、健康相談で看護師に相談し、自分で気を付けることについて整理できました。ひとり暮らしのBさんは、ホームヘルパーに家事を頼んでいました。Bさんとケアマネジャーと就労支援課職員とで相談を行い、勤務時間とヘルパー利用のスケジュールについて相談しました。宅配サービスや住宅改修も活用し、自分でできる事を増やしました。ホームヘルパーの支援は土曜日に集中して行うこととし、平日は仕事に集中できる環境を整えました。

### ④安定して働き続けよう（就労支援課：就職活動）

企業見学会に参加し、障害者雇用についてイメージを持つことができました。求人票を見ながら職員と相談し、無理せず働き続けられるような条件を整理しました。ハローワーク等が開催する面接会に積極的に参加し、採用が決定しました。就職後も定期的に職業相談を行い、業務内容だけでなく、体調や在宅生活の安定について確認しています。